

第4学年 社会科 学習指導案

福岡市立大原小学校 教諭 岡野 憲太

1. 単元名 地域の発展につくした人々-5人の庄屋と村人たち-

2. 単元の目標

- ・ 約360年前の浮羽地方の様子や当時の人々の願いを捉え、5人の庄屋が様々な苦心をしながらも生活の向上のために努力し、貢献したことを理解できる。 (知識・技能)
- ・ 約360年前の浮羽地方の人々の生活の課題や願いについて調べ、5人の庄屋がその願いをかなえるためにどのようなことをしたのか調べてまとめることができる。 (思考・判断・表現)
- ・ 5人の庄屋と村人たちの用水路づくりについて、実際に浮羽地方に見学に行き、調べてまとめることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元、「地域の発展につくした人々-5人の庄屋と村人たち-」は、学習指導要領の「地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解する」を目指すものである。

約360年前の浮羽地方で、田畑に水を引くことができず苦しい生活をしていた村の5人の庄屋が、この状況を変えるべく筑後川から用水路を引く。決して簡単な工事ではなかったが、命をかけて工事を成功させ、現在の浮羽地方の農業の発展にも貢献したという内容である。

この単元を通して、地図帳や教科書の中の具体的資料を通して必要な情報を集め、読み取り、年表などにまとめる技能を身に着けられると考える。

(2) 児童観

本学級は社会科の学習が好きな児童が多い。社会の学習が「とても楽しい」「楽しい」と肯定的な回答をする児童が、24人のうち21人(約87%)である。

「福岡県の様子」や「ごみとわたしたちの暮らし」「水とわたしたちの暮らし」では、地図帳や教科書、副読本などの資料を用いて意欲的にまとめまで行っていた。これらの単元は児童たちの生活にとって身近なものである。しかし、本単元「地域の発展につくした人々-5人の庄屋と村人たち-」は用水路を作り、地域の発展の貢献した庄屋の話であり、児童にとってあまり身近なものとはいえない。

そのため、これまでほど意欲的に調べたりまとめたりすることは難しいと考える。

(3) 指導観

前述したとおり、本学級の児童は社会科の学習自体は好きな児童が多い。しかし、用水路づくりを取り上げた本単元は、児童にとって身近なものではなく、これまでほど意欲的に学習に取り組むのは難しいと思われる。

そこで、本単元の最後に、教材の舞台となった用水路に実際に見学に行く活動を取り入れる。また、浮羽歴史民俗資料館を訪れ、教科書の内容についてより詳しく話を聞く機会を設ける。そうすることによって、舞台となった筑後川の大きさや用水路の大きさ、工事の大変さなどを肌で感じさせることができる。

見学に行くことを伝えたいので、調べ学習に取り組むことにより、先人の苦労や努力に関する知識を獲得するとともに、見学に向けて疑問を持ちながら学習に取り組むことができると考える。授業で出た疑問は実際に見学に行った際に、本物を見たり、見学先の方に聞いたりすることで解決していく。そうすることで、用水路づくりという少し難しい内容にも意欲的に取り組むことができ、先人の苦労や努力について理解することができる。と考える。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

公平性…5人の庄屋は、用水路を作る際に、用水路が通る村で水害が起きないように入念に下調べを行って工事を進めた。

責任性…5人の庄屋は工事を始める前に血判を押し、命がけて用水路づくりを行った。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

つながりを尊重する態度

5人の庄屋がたくさんの人とかかわりながら用水路づくりを成功させたことを理解する。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

5人の庄屋と村人たちが作った用水路は現在の浮羽地方でも使われていることから、今の努力は未来の生活をよいものにすることができると理解する。

世代内の公正

5人の庄屋は工事をやる際に、用水路が通る村で水害が起きないように入念に下調べを行って工事を進めたことから、自分たちのことだけ考えるのではなく、浮羽地方全体のことを考えて作業をしたことを理解する。

・達成が期待されるSDGs

目標 2 飢餓の解消

目標11 住み続けられる町づくり

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 約360年前の浮羽地方の様子と当時の人々の願いを捉えている。</p> <p>② 5人の庄屋と村人たちの様々な苦心や努力を捉えている。</p> <p>③ 作った用水路のおかげで米の取れ高が大きくなったことを捉えている。</p>	<p>① 約360年前に5人の庄屋と村人たちがしたことについて調べ、学習問題を作る。</p> <p>② 現在の福岡などで行われている地域への貢献活動を調べ、5人の庄屋と村人たちはたらきと関連付けてまとめている。</p>	<p>① 学校での授業だけでは分からないことを、見学先で見たり、聞いたりして学び、まとめている。</p>

5. 単元の指導計画(全10時間)

次	主な学習活動	学習への支援(・)	評価(△) 備考(・)
1	<p>○約360年前の浮羽地方の様子について調べ、当時の人々の願いについて考える。</p> <p>・苦しい生活から抜け出したい。</p>	<p>・ 約360年前の浮羽地方では、お米がとれず生活が苦しかったことを理解させるために、5人の庄屋が住む村の餓死者と逃げ出した戸数の表を提示する。</p>	△ア①
2	<p>○約360年前に5人の庄屋と村人たちがしたことについて調べ、学習問題を作る。</p> <p>学習問題</p> <p>5人の庄屋と村人たちはどのような思いを持って用水路を作ったのだろう。また、どのようにして用水路を完成させたのだろう。</p>	<p>・ 5人の庄屋が住む村と川の高低差を理解させるために、学校の校舎で高さ確かめる。</p>	△イ①

3	<p>○ 用水路づくりが始まるまでに、どのようなことをしたのか調べる。</p> <p>・計画書を作るため、昼も夜も調査を続けた。</p> <p>・反対した人たちを説得した。</p> <p>○ なぜ、命をかけてまで工事を行おうとしたのか考える。</p>	<p>・ 用水路づくりを実現させるために昼も夜も調査を続けたことや、反対した村を説得したことが分かるように、そのときの様子が分かる写真を提示する。</p>	△ア②
4	<p>○ 大石・長野水道には、どのような工夫があるのか調べる。</p>	<p>・ どのような工夫があったか理解させるために、長野堰や角間天秤の仕組みがかいてある図や写真を提示する。</p>	△ア②
5	<p>○ 大石・長野水道の工事がどのように行われたのか調べる。</p>	<p>・ 用水路の工事の様子を理解させるために、作業中の様子の図や使われた道具の写真などを提示する。</p>	△ア②
6	<p>○ 用水路が完成したときの様子や、その後の様子について調べる。</p> <p>・米のとれ高が大きく増えた。</p> <p>・5人の庄屋は、水の神様として長野水神社にまつられている。</p>	<p>・ 用水路が完成したことによって、5人の庄屋が住む村の状況が大きく好転したことが分かるように、米の取れ高の変化を示したグラフを提示する。</p>	△ア③
7 8 9	<p>○ 浮羽歴史民俗資料館、大石ぜき、長野水神社、角間天秤を見学し、分かったことやそこから考えたことをまとめる。</p>	<p>・ 授業では分からなかったこと、聞けなかったことをメモしておくように促す。</p>	△ウ①
10	<p>○ 地域の発展のために、現在の福岡などで行われていることを調べる。</p> <p>○ なぜ、中村哲さんが人生をかけて地域の発展に尽くしたのか考える。</p>	<p>・ 調べることをすぐに決められるように、ペシャワール会と青年海外協力隊のどちらかを調べるように促す。</p>	△イ②